



北陸地域の概要 (2025年2月調査)

地域開発調査部インターン (北陸銀行神明支店 得意先課主任)

吉岡 歩佳

景気の現状判断 インバウンド効果の一方で、2度の大雪により集客減少との声も

現状判断指数(DI)は前月から2.4ポイント下落し48.3となった。「今月前半は、春節で多くの中系系の客が来店した。後半は大雪の影響が心配されたが、大学生を中心とした若い世代の来店が多かった。高額品が売れているというよりも、来客数が増えて売上が伸びている(商店街)」、「能登半島地震の震災復興需要の減少で、稼働率は前年より低下しているが、インバウンド需要により前々年との比較では稼働率、客室単価共に上昇している(都市型ホテル)」と、インバウンド効果で明るい声が上がった。一方、「2月は最強最長寒波の影響で、月のうち15日間は来客数が大幅に減り、売上が低迷している。バレンタインデー催事は過去最高売上を更新するなど好調な面もあったが、衣料品は春物中心の展開であったため、実需対応ができず苦戦している(百貨店)」、「2月は2度の寒波の影響で予定の見直しやキャンセルの影響が大きく、3か月前と比較して景気は悪くなっている(テーマパーク)」と、大雪の影響で売上確保に苦戦するコメントが多く見られた。

景気の先行き判断 新生活シーズンに向けた消費活動に期待する一方、長引く物価高に懸念

先行き判断指数(DI)は前月から2.8ポイント下落し50.3となった。「年度末、新年度、ゴールデンウィークと、何かと人が動く時期になるため、2月と比較すると外出や外食の機会が増えると考え(一般レストラン)」、「新年度に入ると歓迎会があり、外出の機会も増えると考え。また、花見などでタクシー利用が増えると考えている(タクシー運転手)」と、新生活シーズンに向けた消費活動の活発化が期待される。一方、「米の販売価格が高騰しているだけでなく、それにより外食価格も高騰しているため、景気はやや悪くなるとみている(スーパー)」、「このまま金利や物価が上昇すれば、景気は悪くなるとみている。減税や賃上げが必要であると考え(パチンコ店)」、「これだけ値上げが続くと、し好品である酒類は後回しになるのが当たり前である。消費者の収入が増えない限り、先行きは暗い(その他専門店[酒])」と、長引く物価高や金利上昇の影響を受け、経済活動が鈍化することへの懸念の声が多く寄せられた。

図1 景気の現状指数(DI)の推移[季節調整値]

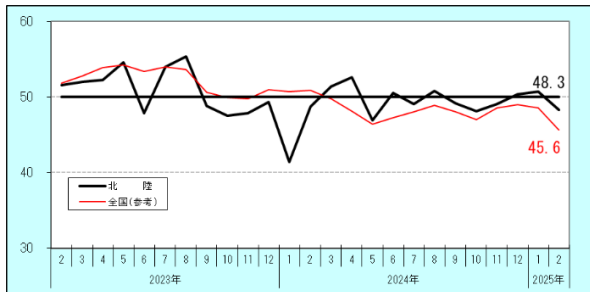
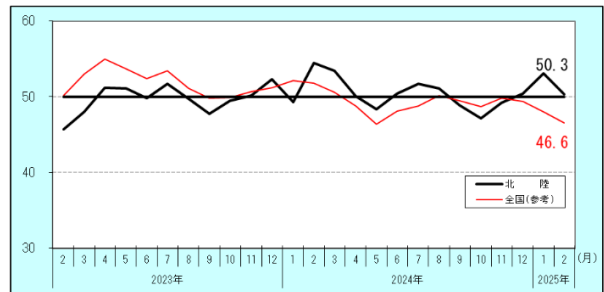


図2 景気の先行き指数(DI)の推移[季節調整値]



●2月のアンケート内容

調査期間：2025年2月25～28日

調査対象：合計100名(うち回答者88名)

- (内訳) ・家計動向関連
- ・企業動向関連
- ・雇用関連

●景気の判断指数(DI)の算出方法

景気の現状や先行きに対する5段階の判断に、それぞれ以下の点数を与え、これを各回答区分の構成比(%)に乗じて算出している。(良い=+1、やや良い=+0.75、変わらない=+0.5、やや悪い=+0.25、悪い=0) DIが50の場合には、景気は「横ばい」、50を超えると「改善」、50を下回ると「悪化」を示す。

内閣府「景気ウォッチャー調査」は景気の動きを敏感に観察できる立場の2050人を対象に全国12地域で毎月実施され、北陸地域では当研究所が100名を対象に調査している。本誌の北陸地域の概要は当研究所の責任で取りまとめたものである。なお、調査内容は内閣府のホームページで毎月第6営業日に公表されている。

〈景気の現状に対する判断理由（3カ月前と比較して）〉

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	◎	－	－	－
	○	商店街（代表者）	来客数の動き	・今月前半は、春節で多くの中華系の客が来店した。後半は大雪の影響が心配されたが、大学生を中心とした若い世代の来店が多かった。高額品が売れているというよりも、来客数が増えて売上が伸びている。
	○	乗用車販売店（総務担当）	販売量の動き	・3カ月前は売上が前年を下回っていたが、直近では上回っている。
	○	一般レストラン（統括）	お客様の様子	・2月は寒波が2度あったことにより地元客の外出が減り、また、県外からの観光客や出張者のキャンセル等も増えたため、来客数が減っている。この後は3月の卒業シーズンに向けて、外食機会も増えるとみている。
	○	都市型ホテル（役員）	来客数の動き	・能登半島地震の震災復興需要の減少で、稼働率は前年より低下しているが、インバウンド需要により前々年との比較では稼働率、客室単価共に上昇している。
	○	住宅販売会社（営業）	来客数の動き	・積雪が多く、客足への悪影響を心配したが、思いの外、客の動きが活発である。足元の悪さによるマインドの低下よりもインフレに対する懸念が上回った印象を受ける。
	□	一般小売店〔書籍〕（従業員）	お客様の様子	・買い控えをしている客が見受けられ、全体的に変化はない。
	□	スーパー（仕入担当）	販売量の動き	・生鮮食品、加工食品、米などの値上げが続くなかで販売量が顕著に落ちているが、客の来店頻度などは落ち着きを見せつつある。必要な物を必要な分しか購入しないといった傾向がみえる。
	□	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・春物の売行きが伸びることを期待していたが、2度の寒波で客足が遠のき、大きく売上を落としている。
	□	家電量販店（本部）	来客数の動き	・通常は降雪が落ち着くと来客数が増加するが、今年は雪が長引いたため、累計では厳しい状況である。
	□	観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・週末の予約は良いが、平日の集客が弱い。特にグループ客、団体客が新型コロナウイルス感染症発生前と比べてほぼ半減している。
	□	通信会社（役員）	販売量の動き	・新規契約数等に大きな変動はみられない。
	□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	お客様の様子	・大雪の影響が来客数に出ている。利用体験人数、入会人数共に一向に増えない。
	□	住宅販売会社（従業員）	単価の動き	・建築資材の高騰や職人不足が続いており、景気の先行きに変化がみられない。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	販売量の動き	・値上げ等の動きが活発になっているため、豚肉の動きは良いが牛肉の動きが少し鈍い。牛肉の方が単価が高いため、客単価が下落している。
	▲	百貨店（売場主任）	来客数の動き	・2月は最強最長寒波の影響で、月のうち15日間は来客数が大幅に減り、売上が低迷している。バレンタインデー前は過去最高売上を更新するなど好調な面もあったが、衣料品は春物中心の展開であったため、実需対応ができず苦戦している。
	▲	スーパー（総務担当）	お客様の様子	・米の価格高騰などの物価高により、買上点数が減少している。
	▲	衣料品専門店（経営者）	お客様の様子	・商品を手にとって広げたり、試着したりするが、検討で終わる客が増えている。衣料に金を回す余裕がないのではないかと。
	▲	家電量販店（店長）	販売量の動き	・物価高が止まらないため、景気はやや悪くなっている。
	▲	住関連専門店（役員）	来客数の動き	・今月は特に天候の影響が大きかった。週末に2度の大雪があり、来客数に響いた。買上点数も減少傾向で、天候だけでなく、最近の市況にも要因があると考える。
▲	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	それ以外	・記録的な寒波により降雪が続き、営業そのものに影響が出ている。	
▲	高級レストラン（スタッフ）	来客数の動き	・2月前半は気象庁により10年に1度の大雪との発表があり、予約のキャンセルが相次いだ。平野部はそれほど雪の影響がなく、大きなダメージを受けた。	
▲	美容室（経営者）	来客数の動き	・北陸地方は2度にわたり強烈な寒波に見舞われ、客足が遠のいた。来客数が10%近く落ち込み、それに伴い売上も大きく減少している。	

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	▲	住宅販売会社 (従業員)	単価の動き	・施工単価及び資材価格の高騰により建物単価が上がっており、顧客層が狭くなっている。
	×	コンビニ (店舗 管理)	来客数の動き	・2度の大雪の影響で来客数が激減している。
	×	衣料品専門店 (経営者)	お客様の様子	・大雪の影響で客足が遠のいている。
	×	その他専門店 [酒] (経営 者)	販売量の動き	・とにかく商材が動かない。いろいろな物が値上げされていることなどが影響していると考ええる。
	×	スナック (経営 者)	来客数の動き	・前年同月比で7割の売上となっている。天候に左右されやすく、足元の悪さや寒さのため客は外出を控えている。また、物価高によりサラリーマンの足が遠のいている。しかし、居酒屋などは大変忙しいと聞く。
	×	テーマパーク (役員)	来客数の動き	・2月は2度の寒波の影響で予定の見直しやキャンセルの影響が大きく、3か月前と比較して景気は悪くなっている。
企業 動向 関連	◎	-	-	-
	○	化学工業 (総務 担当)	受注量や販売量 の動き	・販売量が増えてきている。
	○	建設業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・公共土木工事を主とする建設会社である当社では、2月は除雪作業による売上とその利益、及び大手舗装会社からの下請受注工事の完成による売上を、月次決算に反映することができている。その結果6月末決算予想も上振れする見通しである。
	○	金融業 (融資担 当)	受注価格や販売 価格の動き	・幅広い業種において、売上の増加、利益率の改善がみられる。また、能登半島地震復興に係る業者の資金需要が増加している。
	○	税理士 (所長)	取引先の様子	・小規模事業であるほど、人手不足は深刻である。また、確定申告で個人事業主の1年間の決算をみているが、ほとんどの顧問先で利益を確保できている。
	□	食料品製造業 (経営企画)	受注量や販売量 の動き	・能登半島地震で被災してから1年余りが経過しているが、一旦失われた受注量は戻らず、いまだ震災前のレベルには程遠い状況である。
	□	繊維工業 (総 括)	受注量や販売量 の動き	・生産高は能登半島地震発災前のレベルに回復しているものの、全体としては、依然として盛り上がり欠ける展開が続いている。
	□	一般機械器具製 造業 (総務担 当)	受注量や販売量 の動き	・人材の採用単価の上昇やベースアップなどの対応により、人件費が増加しているものの、なかなか簡単には価格に転嫁できていない。
	□	電気機械器具製 造業 (営業担 当)	受注量や販売量 の動き	・目先の受注動向は一部を除き増加傾向がみられず、顧客からの今後の発注予定情報にも目立った増加傾向はみられない。また、先々の動向について聞き込みを行っても、芳しい情報はなく、しばらくは現状維持が続くと考える。
	□	輸送業 (管理会 計担当)	受注量や販売量 の動き	・企業間物流の物量に大きな変化がない。
	□	不動産業 (経営 者)	受注量や販売量 の動き	・客からの問合せが少ない。特に個人客の活発な話がない。
	□	司法書士	取引先の様子	・令和6年11月、12月決算の決算書を見ると、売上は前年度を上回るが、経費の増加で利益は減少している企業が多い。
	▲	*	*	*
	×	-	-	-
雇用 関連	◎	-	-	-
	○	*	*	*
	□	人材派遣会社 (役員)	採用者数の動き	・派遣依頼数は高い水準を維持しているものの、派遣登録者の確保が難しい、という状況に変化はない。
	□	職業安定所 (職 員)	求人数の動き	・有効求人倍率は約2倍で高止まりとなっているが、原材料費、光熱費、燃料費の高騰や最低賃金の引上げ等、中小企業を中心に企業環境が厳しくなっており、事業主都合で退職した求職者が増加している。
	□	民間職業紹介機 関 (経営者)	求人数の動き	・人手不足、不人気の業界は常に募集しているものの、人が集まらずマッチングしていない状況である。また、高齢者の求人が増えているが、これにも人が集まっていない。
	▲	-	-	-
×	-	-	-	

〈景気の先行き（2、3カ月後）に対する判断理由〉

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	◎	－	－
	○	商店街（代表者）	・気象予報によると、好天に恵まれそうなので、売上の伸びに期待したい。とはいえ、インバウンドの増加は桜の開花状況次第という面が強い。
	○	家電量販店（本部）	・積雪による影響から徐々に回復すると考える。
	○	乗用車販売店（従業員）	・大雪が続き来客数に影響があったが、今後はイベント等の予定があるため期待している。
	○	その他小売〔ショッピングセンター〕（統括）	・天候のリスクを除けば、春物商材の入荷量は前年より増加傾向にあり、今後の売上が期待できる。
	○	一般レストラン（統括）	・年度末、新年度、ゴールデンウィークと、何かと人が動く時期になるため、2月と比較すると外出や外食の機会が増えると考えられる。
	○	都市型ホテル（スタッフ）	・3月後半から団体やインバウンドの宿泊予約が回復しており、同じく宴会の予約も件数が伸びている。
	○	タクシー運転手	・新年度に入ると歓迎会があり、外出の機会も増えると考えられる。また、花見などでタクシー利用が増えるかとみている。
	○	通信会社（役員）	・新サービスの導入により、通信サービスの解約数の減少を見込んでいる。
	○	テーマパーク（役員）	・天候が通常どおりになれば、来客数も増えると考えられる。ただし、北陸新幹線の延伸から1年が経過するため、特需的な動きは落ち着いてくるとみている。
	○	競輪場（職員）	・インフレにより主な利用客である中高年男性の名目賃金等の収入が上がっているのか、売上が上がっている。インフレの継続により、売上が更に増えるかとみている。
	□	一般小売店〔事務用品〕（店長）	・天候が回復し、4月中旬までは新生活のための需要が見込めるが、5月は停滞するとみている。
	□	百貨店（売場主任）	・大阪・関西万博の開催で訪日外国人が増え、インバウンド売上は好調に推移するとみている。前年5月は過去最高のインバウンド売上を記録しており、今年の5月も前年並みかそれを上回る訪日外国人の来店を見込んでいる。
	□	スーパー（店長）	・今後もメーカーによる値上げが予測されることから、景気回復の見通しは厳しい。
	□	衣料品専門店（経営者）	・春物の売上に期待をしているが、天候次第ということもあり、先行きは非常に不透明である。
	□	家電量販店（店長）	・悪天候で売上が低迷しているが、客単価自体が下がっており、天候の影響だけではないとみている。
	□	乗用車販売店（総務担当）	・現状は買換えを中心とした商談が多く、一定の受注はあるものの、受注できない車種もあるため、大幅な増加は見込めない。
	□	スナック（経営者）	・一般的にゆとりがなくなってきており、しばらくこの状態が続くとみている。
	□	観光型旅館（経営者）	・北陸新幹線の延伸効果は落ち着き、仕入費用や固定費は増えてきている。平日の集客の弱さが大きな課題となっている。
	□	旅行代理店（従業員）	・宿泊費、交通費など全てが値上がり傾向である。それでもホテル、貸切バスなどの予約は確保しづらく、今後影響が大きくなるとみている。
	□	その他レジャー施設〔スポーツクラブ〕（総支配人）	・新年度より会費の値上げをするが、会員数にどの程度の影響が出るか、全く見通せない状況である。
	□	住宅販売会社（従業員）	・日本銀行の利上げにより、住宅ローンの金利も上がると予想される。
	▲	一般小売店〔精肉〕（店長）	・報道にあるように、かなりの数の商品が値上げされることから、消費者の財布のひもは固くなる。豚肉の動きは良くなるとみているが、牛肉の動きがますます悪くなり、景気はやや悪くなると考える。
	▲	スーパー（総務担当）	・米の販売価格が高騰しているだけでなく、それにより外食価格も高騰しているため、景気はやや悪くなるとみている。
	▲	衣料品専門店（経営者）	・社会的状況の不安定さや気候変動により客がナーバスになっており、動きがやや悪くなると考える。
	▲	家電量販店（店長）	・物価高が続いているため、購入したい商品があっても安価なものを選ぶしかなくなる。
▲	乗用車販売店（役員）	・米国大統領の施策により、自動車などの関税問題の影響が特に海外取引の面で出てくると考える。大手製造業における活況に陰りが出てくることを懸念している。	
▲	通信会社（職員）	・物価高がおさまらないため、景気はやや悪くなるとみている。	
▲	パチンコ店（経理）	・このまま金利や物価が上昇すれば、景気は悪くなるとみている。減税や賃上げが必要であると考えられる。	

(- : 回答が存在しない、* : 主だった回答等が存在しない)

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計 動向 関連	▲	住宅販売会社（従業員）	・物価や人件費の高騰と人手不足が重くのし掛かり、受注しても施工が追い付かず、売上も伸ばせない。
	×	商店街（代表者）	・年金生活者がいる世帯では、これまで年金で生活費を賄っていたが、最近は状況が一変し、家計に余裕がなくなっている。これでは消費が増えない。
	×	;	・これだけ値上げが続くと、し好品である酒類は後回しになるのが当たり前である。消費者の収入が増えない限り、先行きは暗い。
企業 動向 関連	◎	-	-
	○	食料品製造業（経営企画）	・能登半島地震で被災し、いまだ受注量は震災前の水準には戻っていないが、この先は緩やかに増加していく見込みである。
	○	プラスチック製品製造業（広報）	・断熱リフォーム需要の微増を見込んでいる。
	○	一般機械器具製造業（経理担当）	・自動車関連部品や産業用関連製品の受注状況は、前年比及び計画比共にこの先数か月は未達となる見通しである。オートバイ関連部品においては、欧州向け中心に前年末から旺盛な受注が続いており、前年比、計画比共に超過となる見通しである。ただし、いずれの製品群も2～3か月先は当月よりも増加する見込みである。
	○	電気機械器具製造業（営業担当）	・新規案件の見積依頼件数に若干の増加がみられる。また、目先1年前から数か月前に見積り提示した案件の受注が徐々に決まりつつある。新規案件の金型や設備関係の顧客の動きがようやく出てきている。しかし、新型コロナウイルス感染症発生前のように金型や設備の完成後に即量産化へ移行するかはまだ分からない状況で、今後も顧客からの情報収集に努め、動向の確認を行う必要がある。
	○	建設業（経営者）	・年度末完成工事が売上に計上されるため、5月の完成工事高及び営業利益が増える。
	○	税理士（所長）	・顧問先の受注状況を聞いていると、特にサービス業が順調な印象を受ける。また、年度替わりの歓送迎会需要で、飲食店には徐々に予約が入っている。暖かくなるにつれて人出が増えるため、今よりも消費は拡大するとみている。
	□	繊維工業（総括）	・スポーツやアウトドア向け商材の本格的な売上回復を期待する声が高まっている一方、先行きについて需要の見通し不安を挙げる企業が増加している。特に、自動車用途の商材について、米国防権の関税引上げによる影響を懸念する声が出ている。
	□	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の分の注文の入り具合から、景気は変わらないと考える。
	□	一般機械器具製造業（総務担当）	・全体の工作機械受注額はほぼ横ばいとなっており、景気の動向として余り変化はない。
	□	建設業（役員）	・マーケットに需要はあるものの、人手不足がかなり影響し、受注したくてもできない難しい状況が続くとみている。
	□	司法書士	・企業の利益の減少は、人件費、原材料価格の高騰が要因であるとみているため、景気が悪化しているわけではないと考える。
	▲	金融業（融資担当）	・ここ数年は物価高や賃上げ圧力が、企業の利益を圧迫する要因となっている。足元では金利上昇による利息の負担拡大や米国防権の不透明感があり、景気が改善する兆しがみえない。
×	輸送業（経理）	・業務に係る全ての価格が高騰していることに加え、あらゆる物価も上昇しているため、利益が出ない。	
雇用 関連	◎	-	-
	○	新聞社〔求人広告〕（担当者）	・求人広告の見込み数が増加傾向である。
	□	人材派遣会社（社員）	・求人状況に変化がなく、新たな積極的な求人はない。
	□	職業安定所（職員）	・有効求人倍率は約2倍で高止まりとなっており、原材料費、光熱費、燃料費の高騰や最低賃金引上げ等、中小企業を中心に企業環境が厳しくなっている。一方、大手企業の決算状況をみると、増収増益の企業が多い。こうした状況が今後も続き、総合的に景気は変わらないとみている。
	□	民間職業紹介機関（経営者）	・求人の動きに変化がなく、求職者数も頭打ちの状態である一方、中小企業における人材不足は継続している。
	▲	人材派遣会社（役員）	・当社は人材派遣会社だが、派遣するスタッフの確保が難しいだけでなく、派遣先の新規開拓や派遣スタッフの労務管理をする正社員に退職者が出た際の補充まで難しくなっている。労働力人口の減少が日本経済の縮小につながると考える。
×	-	-	